

令和6年度学校自己評価システムシート (県立大宮武蔵野高等学校)

目指す学校像	1 高い目標を持ち、自らの夢を実現できる生徒を育成する学校 2 社会で活躍できる生徒を育て、地域が誇れる学校
--------	---

重点目標	1 学力の向上を目指した、生徒一人ひとりに適した授業改善の取組 (R5 変更) 2 第一志望実現に向けた系統的な進路指導の確立 3 基本的生活習慣の確立とマナーアップ、生徒の主体的な活動の一層の充実 4 地域貢献・連携ができ、地域に信頼される生徒の育成
------	---

達成度	A	ほぼ達成(8割以上)
	B	概ね達成(6割以上)
	C	変化の兆し(4割以上)
	D	不十分(4割未満)

※学校関係者評価実施日とは、最終回の学校評価懇話会を開催し、学校自己評価を踏まえて評価を受けた日とする。

出席者	学校関係者	8名
	生徒	4名
	事務局(教職員)	7名

※ 重点目標は3つ以上の設定も可。重点目標に対応した評価項目(年度達成目標を意味する。)は複数設定可。

※ 番号欄は重点目標の番号と対応させる。評価項目に対応した「具体的方策、方策の評価指標」を設定。

学 校 自 己 評 価							
年 度 目 標			年 度 評 価 (1 月 8 日 現 在)				
番号	現状と課題	評価項目	具体的方策	方策の評価指標	評価項目の達成状況	達成度	次年度への課題と改善策
1	【現状】 ・生徒アンケート(肯定的回答)「授業のわかりやすさ」前年度比5%増 「入学してよかった」6%増 検定試験の受検状況が向上 【課題】 ・授業の分かりやすさを向上させるための取組を継続しながら、主体的に学びに向かう姿勢を生徒が整えていくための働きかけを検討する必要がある。	わかりやすい授業に向けた改善と主体的に学ぶ生徒の育成(R5から継続)	①授業公開週間を年2回設定して、各教科で授業改善のための意見交換を行いながら、様々な学力層の生徒に対応した、各生徒が小さな成功体験を感じるような授業を実施する。(継続)【教務部・各教科】 ②学びへの興味関心を高め、主体的な学習に向けた支援をするための補習や検定、一人一台端末の活用、その他教育課程外の探究活動を積極的に実施する。【各分掌・各教科】	①生徒アンケート「授業のわかりやすさ」「入学して良かった」の数値が向上したか。(数値の推移) ②各教科・分掌の取組により、補習や検定の受検状況がさらに向上し、端末利用等による生徒の探究活動が活発に行われたか。(観察・数値の推移)	【ほぼ達成】 授業公開週間を、6月と11月に設定した。「様々な学力層の生徒への対応した授業」の実施に努めて、授業の難易度に壁を感じる生徒の減少につながった。 12月生徒アンケート(肯定的回答) ・「授業のわかりやすさ」87%(R5 80%) ・「入学してよかった」前年度比3%増 検定試験の受検状況はR4と同程度だった。 ・英検受検者数23名(R4 21名 R5 35名) 英語研修は費用負担を鑑み、夏期冬期ともに東京都での実施に改め、参加者を確保した。	A	12月生徒アンケート ・授業の速度に追い付いている90%(R5 88%) ・興味関心をもって授業に臨んでいる89%(R5 85%) ・授業以外で全く勉強しない41% 分かりやすい授業への取組と生徒の反応が呼応して改善している。次のステップとして、生徒自らが「何かを学びたい」と考えるような働きかけを検討する。
2	【現状】 ・約95%が進路を決定した。 ・生徒アンケート「進路実現に向けたガイダンスが充実している」93% 【課題】 ・取組の見直しを継続し、生徒のキャリア意識・自己理解を深めるとともに、生徒理解に基づいた進路相談の充実が求められる。	キャリア意識の育成と生徒理解に応じた進路指導の実現(R5から継続)	①LHR・総合的な探究の時間等を活用して、特に職業観・勤労観を重視しながらキャリア意識を育成し、進路選択につなげていく。面談等を活用し、学校生活を充実させることから進路意識を涵養する。 【進路指導部・各学年】 ②進路資料室や図書館が積極的に利用されるよう促進する。(継続) 【進路指導部・図書視聴覚部】	①生徒進路希望調査において進路未定者が年度内で減少したか。(数値の推移) ②授業内外で進路資料室や図書室を活用する場面が増えたか。(取組・観察)	【ほぼ達成】 3年間にわたる系統性を意識した形で総合的な探究の時間を編成し、キャリア形成の視点から授業改善を図った。 ・3年生進路未定(第一志望とする進路先がない)者の数4月40名⇒9月8名 学校求人希望者のうち93%が内定を獲得した。 図書室の授業活用が進み、利用者数は前年度比増となった。	A	12月生徒アンケート ・夢や希望があり努力している75%(R5 71%) キャリア教育の取組が徐々に生徒に浸透している。進路指導部の3か年計画を職員間で共有した。 生徒のキャリア・自己理解を深める取組を今後も充実させていく。 有効な図書館の授業利用が進んできた。今後も継続していきたい。
3	【現状】 ・挨拶を進んでする生徒の増加がみられるが、校外マナーに対する指摘件数は前年度並み。 【課題】 ・安心安全な学校づくりを継続することに加え、保護者との共通理解による協体制を維持しながら学校生活への意欲を喚起する教育活動の工夫を進めたい。	生徒の主体的な行動の啓発とマナーアップ(R5から継続)	①挨拶の励行を継続し対人関係力を育てるとともに、「気づいたらその場で指導する」日常的な声掛け、「生徒の心を動かす」指導によるマナーアップを図る。 【生徒指導部・各学年】 ②生徒情報を共有したうえで、自己管理する力を育むことで、生徒が自己を肯定し、目標を達成しようとする態度を育てる。 【生徒指導部・保健管理部・各学年・特別活動指導部】	①生徒アンケートにおける学校外でのマナー意識に係る項目の回答が向上し、校外マナーに対する指摘件数が減少したか。(数値の推移) ②丁寧な指導を継続し、生徒の態度が変容したか(取組・観察)	【概ね達成】 月初めの正門指導・生徒と合同で挨拶運動・PTA指導部による挨拶運動を実施した。 12月生徒アンケート(肯定的回答) ・学校外でのマナー意識83%(R5 79%) 校内外で挨拶を進んでする生徒の増加がみられるが、校外マナーに対する全校対象の注意喚起を行う場面も複数回あった。	B	12月アンケート(「よくあてはまる」との回答) ・学校は基本的生活習慣の確立に十分に取り組んでいる生徒54% 保護者16% ・安全・安心な学校生活を送っている。生徒55% 保護者11% 今後も保護者・地域との共通理解による協体制を維持しながら安心安全な学校づくりを継続する工夫を行っていく。
4	【現状】 ・文化祭は4年ぶり一般公開。 ・分校交流事業に参加した生徒全員が「楽しかった」と回答。 ・生徒アンケート「学校行事が充実」71% 【課題】 ・引き続き行事・部活動を充実させ、学校生活への満足度を向上させたい。	生徒の主体性を育てる活動の充実(R5から継続)	①部活動に意欲的に取り組む態度を育て、活動を活性化させる。(継続) 【部活動推進委員会・特別活動指導部・各学年】 ②生徒間、教職員と生徒、分校との交流の機会を増やし、生徒が役割意識を持つよう働きかける行事を実施することで、生徒の自己有用感を高める。(継続) 【特別活動指導部・部活動推進委員会】	①部活動継続率の前年度比。部活動の活動状況が充実したか。(数値の推移・取組) ②生徒アンケートにおける各行事の満足度・「入学して良かった」の前年度比。(数値の推移)	【概ね達成】 部活動継続率は前年度から減少。「OMB」(Omiya Musashino Bukatsu)活動として、部を超えた交流プログラムを継続。文化祭は校内公開・一般公開を分けて開催。実施後アンケートで「満足した・概ね満足した」と回答した生徒は7割程度。 12月生徒アンケート(肯定的回答) ・学校行事の充実度76%(R5 71%)	B	生徒アンケート「学校行事の充実度」は上昇が続いている。分校との交流は昨年に引き続き活発に行われた。分校生の主体性も尊重し、共同開催できるものは引き続き連携しながら行いたい。 部活動継続率の向上を目標に働きかけを行っていく方針は今後も継続し、学校全体が部活動を応援している機運を高めていく。
4	【現状】 ・地域・PTAとの積極的な協働 ・学校説明会への参加数減少 【課題】 ・効果的に中学生及びその保護者にPRする方法を具体的に検討する。 ・今後も地域が誇れる学校を目指して密接な関係を持続し、双方の課題を共有して改善を検討していく。	生徒募集活動の充実と地域貢献を通じた信頼される学校づくりの推進(R5から継続)	①組織的に生徒募集活動を工夫・改善し、本校をアピールする手段を講じる。(継続) 【教務部・部活動推進委員会】 ②PTA行事の時期・内容の見直しを行い、主体的に参加しやすい活動とする。(継続) 【渉外部】 ③行事への参加や、学校評議員会・自治会との懇談会等における地域課題の共有を通して、地域との密接な交流を行う。(継続) 【部活動推進委員会・各部活動・各分掌】	①学校説明会の参加者数及び志願希望者数の前年度比。(数値の推移) ②PTA行事の実施状況が充実したか。(取組) ③地域行事や交流事業に積極的に参加できたか。(観察)	【概ね達成】 広報対象を見直すなど工夫を図った。学校説明会参加者数は第4回まで全て増加しているが、志願希望者数は前年度並であった。PTAは各専門部にて行事の内容を点検しながら各行事を実施した。 野球部・女子バスケットボール部が避難所開設訓練に参加、チアダンス部・吹奏楽部は地域行事(祭り・コンサート・公民館)に積極的に参加した。	B	前年度に続いて、高校による広報活動についての意識調査を中学校担当者向けに実施した。 効果的に中学生及びその保護者にPRする方法を具体的にさらに検討する。 地域連携は活発な交流を継続中。今後も地域が誇れる学校を目指して密接な関係を持続し、双方の課題を共有して改善を検討していく。

学 校 関 係 者 評 価	
実施日	令和7年2月10日
学校関係者からの意見・要望・評価等	
<ul style="list-style-type: none"> ・昨年よりアンケート結果が良くなっている。教職員の努力の成果が表れている。一方、授業以外で全く勉強しない生徒が多く、生徒が主体的に取り組むための取組が必要ではないか。 ・学ぶことが楽しいと思わせる経験が必要で、目標の意識が大事だ。「授業以外にもっと学びたいか」という問いに対して、「全く勉強したくない」と答えてしまうのは、特定の学校だけではなく全体的な傾向なので、来年度取り組んでみてはどうか。 ・進路のために学ぶことも大切である。体験記の共有などは行っているかもしれないが、ただ何を学んでいるかということだけではなく、大学でどのような日々を送っているかといった生活面も含めて体験記として生徒におろしてみては。 ・(生徒)周囲には3年から進路を考えればいいと思っている人が多い。きちんと選べるようになるには1年のうちからしっかり考えて、夢を決めておいた方がいい。 ・あいさつについては、高校生だからではなくてよいということではない。教職員から積極的にあいさつするだけではなく、家庭内でもしっかりとあいさつをする習慣をつけていく必要があるのではない。 ・生活については、「手は離しても心を離すな」という言葉があるように、ある程度は家庭で教えていかなければいけないと考えている。家庭でも協力していきたい。たくさん保護者に知ってもらいたい。 ・文化祭や学校説明会が充実していたのではないかと思う。そのことが倍率上昇につながっているのではない。 ・大宮武蔵野高校の生徒には、西区を3年間学ぶ土地として、誇りを持ってほしい。部活動など、生き生きと活躍する姿を地元に見せてほしい。その姿が地元住民にもだんだんと伝わっていくはずだ。行政の事業にも参加してもらえれば、相乗効果にもなる。 ・学校説明会は以前より分かりやすくなっていった印象だ。また、同様に参加した友人は「実際に来ると、イメージと違いくらい学校だった。足を運ばないと学校のことは分からない。」と言っていた。 ・避難所開設訓練は3年目になった。地域にとってはとてもありがたい。また、指扇駅での募金活動は参加人数が多くよかった。ぜひ地域に出てほしい。 	